



GOOD NEWS と きの こ え



は、六歳の時に産みの母をくも膜下出血で亡くしています。その後、クリスチャンの育ての母が来てくれました。私は、その母の財布から何度も何度もお金を盗んでいました。いつもは小銭ばかりでしたが、ある時にお札を盗み、それがばれて、母に腕を定規で何度も繰り返し打たれました。そのうちに、母は私の腕ではなく、自分の腕を定規で

神の前では、すべての人間は罪をもつ罪人です。本来ならば、私が、私たちが神の正しさにかなわないその罪への裁きを受けなければなりません。けれども、私たちの罪を赦すために、

あなたに心に暗闇や過去の傷、恐れがありますか？あるならば、そのあなたのために、このイエス・キリストに現された、神の愛があるのです。（日本長老教会千住キリスト教会牧師）

War Cry

5月号

福音版
2021
May
No.2817

神の愛

堆朱敏男

愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。わたし

たちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。（ヨハネの手紙一 4章8、10節）

私たちはとって一番小さな社会は「家庭」と言われます。そこには、家族愛があり、その愛が「家族を傷つけてはいけない」という気持ちを起こさせます。そして自分なりに「良い」と思うことを成していきます。親は、子が可愛くて仕方ありません。切っても切り離せない親子の血のつながりからでしょうか、親は子どもが独り立ちするまで、血を流すほどの思いで育てます。子どもに反抗されることも多いでしょう。親は自分の無力さを感じるでしょう。うまくいかないことのほうが多いかもしれません。それでも諦めず、向き合う中で、家族はありのまま受け入れることを教えられ、互いに赦し合い、認め合うことを重ねて、親子関係を築きあげていくのです。私は、六歳の時に産みの母をくも膜下出血で亡くしています。その後、クリスチャンの育ての母が来てくれました。私は、その母の財布から何度も何度もお金を盗んでいました。いつもは小銭ばかりでしたが、ある時にお札を盗み、それがばれて、母に腕を定規で何度も繰り返し打たれました。そのうちに、母は私の腕ではなく、自分の腕を定規で

何度も何度も打ち始めました。それを見た私は「もう二度とお金を盗むのはやめよう」と決心したのです。母は、私が二度と同じ罪を犯さないように、と、自分の身を痛めることで真実の心と愛を表してくれたのだと思います。真の愛とは、人の心を変える、力強く、すばらしいものです。神の愛は、そのような愛です。私たちは、そのすばらしく、力強い愛で神に愛されているのです。神は、愛そのものであり愛を発信されたお方です。そして、聖書には、神のなさったすばらしい業、御業が記されています。神の天地万物の創造の御業、エジプトで奴隷となり苦しみうめいていたイスラエルの民を解放した御業、イエス・キリストを十字架に架け、墓に葬られた後、三日目に復活させ、「死は終わりではない」と悪魔に完全に勝利された御業。その神の御業のすべてが、神の愛なのです。

神は、その独り子イエス・キリストをこの地上に送ってくださいました。そしてイエスは、私たちの罪を全部その身に負って十字架に架かれたのです。十字架は、屈辱的で悲惨なものです。それをイエスは受けになりました。神は、十字架の上のイエスの身に、人間の罪に対する怒りをすべてぶち当てたのです。こうして、罪に対する神の怒りは、愛する独り子イエス・キリストに浴びせられました。それは、神の怒りが私たちに達しないよう、イエスがその身に痛みをすべてを負って、身代わりになってくださったためでした。私の母が私に代わって自分の腕を打ったことにより、「私は同じ罪は二度と犯すまい」と決心したように、イエス・キリストの十字架の上での痛みと死によって人間の罪は赦されました。このイエスこそ、神の愛の現れです。この愛は、隠れているものを照らす光のような真の愛です。

二〇二二年 五月一日 発行

明治二十八年 創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行（除く七月）

創立者 ウィリアム・ブース

大将 ブライアン・ペドル（万国本営

英国ロンドン）

日本司令官

ステイブ・モーリス（救世軍本営 東京都千代田区）



世界をみつめて

〈フランス〉新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響下での支援



コロナ禍にあって、街頭生活者の状況の厳しさが増していることを受け、フランスの救世軍は、街頭やコロナ対策のため休館中の現代美術館「ゲテ・リリック」での給食活動（La Chorba との協働。右下 QR コードより動画を視聴できます）などに積極的に取り組んでいます。また、行政の委託を受け、約200戸の若者向け公営住宅の管理することとなりました。



〈ブルガリア〉救世軍の活動が公式に開始

3月9日（火）、救世軍が活動する国と地域の132番目の国として、ブルガリアでの活動が公表されました。



救世軍公報 ときのこえ
発行日 福音版 / 毎月1日、広報版 / 奇数月15日（除く7月）
定 価 福音版 / 1部40円、広報版 / 1部100円（税込）
クリスマス特集号（12月1日号） / 1部100円
発行兼 救世軍
印刷人 代表者 ステイブ・モーリス
編集人 山谷 真
発行所 救世軍本営 https://www.salvationarmy.or.jp
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17
電話 03-3237-0881（代表）
M a i l jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org
印刷所 ピーアンドエス



すでにブルガリアではロシアとモルドバ出身の救世軍士官（伝道者）の夫妻（写真左下中央）が、開拓伝道や地域支援の働きを始めていました。ブルガリア語の「救世軍」は、「Армията на Спасението」（キリル文字のスラブ語）です。

〈日本〉旧麻布小隊跡地で、新しい宣教活動が開始

昨年12月24日（木）、旧麻布小隊（教会にあたる）跡地に「S A 麻布レジ

デンス」が竣工しました。1階「救世軍 NEW HOPE 麻布」では、「救世軍麻布 New Hope」という、絵画や工作、英会話等を通して福音による創造的な生き方を提案する新しいプログラムが始まっています。

2月は、バレンタインデーに合わせて「愛」をテーマに絵画ワークショップが開かれ、ペアになって一枚の絵を描くことを通して互いの個性を生かしつつ心を寄せ合うことを体験しました。

予定等、詳しくは「救世軍 麻布

New Hope」公式HP（QRコード下）をご覧ください。



救世軍とは？ What is The Salvation Army?
心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man



救世軍は、英国ロンドンに国際本部を置く、世界132の国と地域で活動するプロテスタントのキリスト教会です。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースによって始められ、家のない人々、アルコールの悪影響下にある人々、搾取される女性や子どもたちに助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。

日本での働きは、1895（明治28）年に始まり、伝道の拠点である小隊（教会にあたる）を開設。廃娯運動、失業者対策、病院の設立、児童や女性の保護、アルコール依存症者回復支援など、時代にさきがけて、様々な働きを興してきました。現在の新型コロナウイルス感染症の影響下においても、小隊、社会福祉施設、病院は、感染予防策に最大限努力し、活動をおこなっています。

日本人で最初に救世軍士官（伝道者）となったのは、山室軍平。わかりやすい言葉を選んだ説教や聖書解説を貫き、著作は救世軍の内外で現在も読まれています。

2021年4月1日より、日本の救世軍の司令官として、ステイブ・モーリス大佐及び軍国女性部会長として、ウェンディ・モーリス大佐夫妻（米国出身）が、就任しました。



ステイブ・モーリス大佐
ウェンディ・モーリス大佐

聖書は新共同訳を使用しています © 共同訳聖書実行委員会 © 日本聖書協会 救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営（左記）、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。
☐ 私の近くの救世軍を紹介してください。 ☐ キリスト教についてもっと知りたいです。
☐ 『ときのこえ』の購読を申し込みます。 ☐ 相談を希望します。

日本長老教会 千住キリスト教会

牧師
堆朱 敏男さん
(金) 光良さん

<プロフィール>

牧師の子どもとして生まれ育った光良さんと、鉄道員を辞め、神様の働きのために献身した敏男さんは、結婚以来、光良さんのお父様が宣教師として牧師を務める千住キリスト教会で奉仕している。

2019年、敏男さんは、正式に主任牧師として就任する直前に脳梗塞で倒れ、一時重度の後遺症も心配された。現在は、多くの祈りとリハビリによって回復し、夫婦で支え合いつつ教会活動をおこなっている。街頭生活者支援は、千住キリスト教会誕生の原点である。



アイデンティティに葛藤を覚える中、「選ばれていた」ことを知りました

光良 牧師の父は韓国から日本に留学し、大学卒業後に献身。母は在日韓国人として日本で生まれ育ち、神様のための働きをと思っていたころ、父を紹介されて結婚しました。

私が四歳のころ、父が東京・福生で開拓伝道を開始し、韓国の人が教会を始めた、と近所からも珍しがられました。そんな中、幼かった私は、近所に住んでいた女性に「教会に来て」と声を掛けたそうです。教会に人がたくさん来て教会が大きくなれば大が飼える、という父の言葉から誘ったようですが(笑、その女性はその後しばらくして教会に来るようになり、今も遠い昭島からこの教会に通って来られています。

思春期には、自分のアイデンティティのはっきりしている部分と壊れた部分を感じて悩むようになりまし

た。そして、指紋押捺(外国人登録証明書申請に伴う指紋の登録、一九九九年に廃止)の経験もした私は、日本でも韓国でもなく、私の「国籍は天にある」(ピリピ人への手

時など、両親も葛藤しながら日本で働きをしていることを間近に見ていました。日本では「違う」ことが認められにくいので、もし韓国で生まれていれば、こんなに苦しい思いもしなくていいだろうに、と両親に反発もしました。次第に、神様のことを信じてはいるけれど、親の仕事でもある教会からは離れたいと思うようになっていきました。

けれども、高校生の時に参加したいろいろな教会から青年が集まるキャンプで、韓国人の牧師の子どもである自分、というより、神様と私の関係を見つめることができました。聖書に「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命した」(ヨハネの福音書15章16節※)というイエス様の言葉を読んだ時、神様が、私を愛してくださることがストレー

教会のある地域で楽しく子育てができるように…

光良 短大を卒業して、保育士として働いている一年目に、路傍伝道場で夫に初めて会いました。その後、夫の母教会で行われていた「宣教塾」に通うようになったのが私たちの出会いです。ちょうどそのころ一九九五年の阪神淡路大震災があり、彼は一週間後、早速ボランティアに出かけました。仕事のある私は行けず、ショックを受けても何もできないかと思っていたところ、毎晩なぜか彼から現地の活動報告の電話がかかってきました。その電話から、彼のために祈るようになり、距離が近くなったように思えます。彼は私を安心できる存在と思ってくれたようです。結婚後は、夫が千住キリスト教会に属して、私



写真上より
・あえて福音を語らない子ども食堂
・荒川での給食礼拝で
・毎回ボランティアにも支えられている

の父と共に牧師として働いてくれるようになりました。結婚しても私は保育士の仕事を続けていましたが、ちょうど四年目に、私一人で、目が離せない年齢の子どもたちの担任になったため、トイレもままならず、腎臓を傷めてしまいました。そこで、退職を決意し、一年後に、待望の第一子となる娘が与えられました。出産後、出産仲間などで集まり、教会で親子クラブを始めました。子どもが成長してから、「子ども食堂」をいくつか見学し(「やりた」と思うようになりまし

敏男 若いころに荒れた生活をしていて私ですが、かつての自分のような貧しさに苦しんでいる人々に神様のことを伝えたい、という思いが常にあります。目の前に困っている方がいたら助けずにはいられないのです。脳梗塞で倒れた時には、忍耐を教えられている、と思いました。葛藤の時には、いつも聖書を読んで慰めと喜びをいただいています。どんなに辛い時にも、イエス様の生涯も忍耐の連続だった、と示されるのです。ただ、食事に無頓着で、寝る間も惜しんで生活していたことを反省しています。

千住キリスト教会は、荒川で台風の日橋の下で縮こまって困っている方々を見て、光良の両親がおにぎりとスープを届けたことから始まりました。「給食礼拝」が原点なのです。以来ご飯と、いただいた野菜をたくさん入れた味噌汁、卵焼き、キムチを提供しています。フードバンクなどの支援もいただき、コロナ禍の今はお弁当に変更しましたが、七十〜百三十人の方が集まっています。また、一月の緊急事態宣言をきつ

貧しさと孤独に苦しむ人生。死んでも苦しむなんて御免だ！

敏男 私は、六歳の時に産みの母が突然亡くなったので、近所の人に促されて家のすぐ裏手にある教会に何度か行き始めました。その教会との関わりから、育ての母は父と結婚しました。父が三人の子を連れて再婚しても、貧しい家庭と複雑な家庭環境からか、子ども時代の私は、友達から嫌われ、いじめられていました。中学の時です。その教会で、実話をもとにした三浦綾子さんの小説『塩狩峠』の映画を見て、「クリスチャンはなんとすばらしいのだろう」と思いました。主人公が鉄道員だったことも



紙3章20節)ということを実感すると同時に、私が日本で、韓国人としてクリスチャンになったことに意味を感じることができました。

あつて、高校卒業後に鉄道員になりました。けれども、しばらく働いていて(これが本当にやりたいことなのだろうか)と悩むようになりました。そして「教会に行つて牧師先生に聞いてみよう」と思い立ち、教会のチャイムを鳴らしたのです。真つ暗な会堂に入ってみると先生が出てこられ、私は心の悩みを話しました。すると、牧師先生は、「人は誰であつても罪人なんだよ。その罪をもったままなら、死んだ後にも永遠に苦しまなくてはならない。その罪を赦すために、イエス・キリストが

これから、という時に脳梗塞に。聖書を読んで慰めをいただいてきました

かけに、教会前で手作りのお弁当を二十食無料配布し始めました。買物物が不安だったり、経済的に困窮したり、という方のために、と。困っている方が「あそこに教会がある」とわかってくれたらうれしいです。これは、「この地域に教会があつてよかった」というオンラインセミナーを受けたことから始めました。このセミナーの講師は、救世軍による上野・山谷地区での街頭生活者支援に私たちと共にボランティアとして参加してくださいました。光良 夫が二年前の三月二十九日に脳梗塞で倒れた時には、全く話せず、重い後遺症の心配もされました。神様の御計画は私たちの思いとは違うのだ、と身をもって経験しました。今もリハビリ中で、夫の苦しみは本当には理解できないし、家族の苦しみを夫も理解できていないと思うのですが、イエス様は理解してくださっている、イエス様がここにおられる、そのことだけが大切なことなのだ、と気づくことができました。そして、神を畏れつつ人と関わることを示されています。※この紙面の聖句は新改訳聖書です